

令和2年度 山陽小野田市立山口東京理科大学
数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検評価

1 自己点検・評価報告書の作成

大学教育質保証・評価センターの評価基準を準用してプログラムの点検・評価を行い、その結果を令和2年度点検評価ポートフォリオに掲載しました。

また、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領を準用して、プログラムの実施状況の点検・評価を行い、その結果を令和2年度事業報告書の「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」に掲載しました。

- 令和2年度点検評価ポートフォリオは [こちら](#)（44頁参照）
- 令和2年度事業報告書は [こちら](#)（11頁参照）

2 学修成果に基づく自己点検・評価

授業科目の点検・評価では、前年度開講した授業科目について、授業担当教員による学生の学修成果の評価を対象に実施しました。

- 令和2年度学修成果に基づく自己点検・評価結果は [こちら](#) をご覧ください。

○ 教育効果自己点検項目

基準	自己点検項目
基準 1. 成績評価への取組み	(1) 合格率65%以上を満たしていますか。
	(2) 成績評価はシラバス記載の成績評価法に則っていますか。
	(3) 成績評価のため、試験・レポート点や平常点等の成績配点表を作成しましたか。
	(4) 他教員が点検した場合でも、成績配点表等は明瞭で分かり易いと思いますか。
基準 2. 教育改善への取組み	(1) 成績評価の結果、試験問題やレポート課題等の難易度は最適であると考えていますか。
	(2) 成績評価の結果、教授法を改善して学生の理解度を高めようと考えていますか。

3 学生アンケートを通じた学生の内容の理解度の点検

プログラムに関する授業科目に対し、学生アンケートを行い、次の事項を点検しました。

- 学生アンケートを通じた学生の内容の理解度の点検結果は [こちら](#) をご覧ください。

○あなたが、この科目を受講して

問 1 この授業によく出席した

問 2 この授業のために予習、復習、質問などをして意欲的に取り組んだ

問 3 授業内容をよく理解できた

問 4 この授業内容に興味をもて学習意欲が増した

○教員の授業の進め方や教え方について

問 5 シラバスの記載どおりに講義は進められた

問 6 授業に対する教員の熱意を感じた

問 7 教員は学びやすい雰囲気・環境をつくるように努めていた

問 8 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた

問 9 重要なところを強調して授業が進められた

問 10 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえで有効であった

問 11 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった

問 12 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった

問 13 質問に対する教員の対応は適切であった

○全体的にみて

問 14 この授業によい印象をもった

4 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画

令和2年度のプログラム履修率は約60%です。全学的な履修者数及び履修率向上に向け、令和3年度からプログラムを構成する科目を次のとおり増やすこととしました。

プログラム学習内容	科目名	単位数
(1) データ・AIは、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0等)に深く寄与しているものであり、私たちの生活と密接に結びついていることを学ぶ	コンピュータ概論	2
	健康ビッグデータ解析学	2
(2) 社会で活用されているデータやデータの活用領域は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを学ぶ	健康ビッグデータ解析学	2
	医薬品情報学	2
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例を通し、数理・データサイエンス・AIは、様々な適用領域の知見と組み合わせることで価値を創出することを学ぶ	健康ビッグデータ解析学	2
	医薬品情報学	2
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として「データを読む、説明する、扱う」といった基本的な活用法を学ぶ	医薬品情報学	2

○ 教育プログラム履修者数・履修率(令和2年度)は [こちら](#) をご覧ください。

○ 教育プログラム科目(令和3年度)は [こちら](#) をご覧ください。